

小さな鍵が多くのドアを開けられる

文京国際交流フェスタにボランティア参加して

インターナショナルスクール 中学3年 李 遵(リ ジュン)

日韓アジア基金のボランティアに参加したのは、日韓両国の人々が共に募金集めに貢献することで両国の関係を良くすることができると思ったからです。

また、このような大きなボランティアのイベントに積極的に関わって、恵まれない人の役に立ちたいという思いがありました。

当日、待ち合わせ場所に行くと、高校生(中学生?)は私一人で、他はみんな大学生か成人の人ばかりでした。最初は居心地の悪さを感じて、緊張もしましたが、自分の役割をしっかりと果たそうと決めました。

その後何人かの人に会う内、ボランティアとは単に人助けの為の活動ではなく、人から多くの考えを学び、色々な価値観や考え方を持った人と知り合う機会でもあるということを実感しました。

個人的には、ティーンネイジャーである自分が成人に話しかけるということで、敬語に注意して、相手に敬意を持って接することを心がけていました。おかげで、年上の



ブースの裏でも広報活動をしました。

人にどのように接し、話したらいいのかを学ぶこともでき、良い経験となりました。

イベントの間、韓国茶を作って売り、日韓アジア基金の理念やプロジェクトについて書かれたパンフレットを配る仕事をしました。

リーダーの人が、どのようにして「97円募金」や

「カンボジアの子どもに教科書を」という垂れ幕・スローガンを考えた

かを教えてくれました。その垂れ幕を見た人が、なぜ97円なのだろうと不思議に思って興味を持ってくれることが狙いだそうです。また、多くの大人が「子ども」という言葉にとっても惹きつけられるということです。

お茶は一杯50円で売りましたが、それが高いのか安いのかなどは全く気にならず、皆さんがお茶を買ってくれることは、私達の努力を買ってくれることだと感じ、ただ嬉し

く感じました。そして、私達の努力を受け入れてくれることが、カンボジアの子ども達への寄付へとつながるのです。皆さんが、ただ飲み物が欲しくてお茶を買っているのか、寄付する為にお茶を買っているのか、そんなことは全く考えず、ただお茶を買ってあげることが、私達とカンボジアの子ども達への助けになっている、そのことだけを考えていました。

ボランティアに参加したことで、かけがえの無い、貴重な価値観を得られたと思います。ボランティアのスタッフとして、色々なことを感じ、考え、決意することができました。少しの小銭でも、人の笑顔や満足・希望に値するものなのだと感じました。

イベント終了後、日韓アジア基金のリーダーやスタッフの方を称賛せずにはいられない気持ちになりました。皆さん正直に、最終的にはお金(募金集め?)の為の活動とおっしゃっていましたが、当然のこととして、そのお金は医療・教育・金銭面の手助けを必要としている人への寄付を意味しています。人はボランティアについて書かれた垂れ幕を見ると、すぐに横を向いてしまいます。あるいは、全く見ようとさえしないのかもしれない。私自身もボランティアに以前は興味がありませんでした。しかし、このイベントを経験した今、どれだけ多くの方が自身を成長させ、世の中の役にも立てる絶好の機会を無駄にしているのか、と実感しました。ただお茶を売るだけで、世の中の役に立てるのです。ただボランティアのTシャツを着て、募金のお願いをするだけで、世の中の役に立てるのです。

最後になりましたが、たった一つの小さな鍵が多くのドアを開けることができ、その小さな鍵はいつでもあなたの周りにあるのだと、心から言いたいと思います。



楽しくも有意義な一日でした。